IV 学識経験者の意見 (総合所見)

○ 松尾 七重 氏

平成19年度に千葉市教育委員会が執行した事業について、主に学校教育に関わる「施策1 千葉市の学校で学んでよかったと思える学校づくり」について、先ず、これを構成する基本事業別に所見を述べ、最後に総合的な所見を述べることにする。

「学力が身につく仕組みづくり」については、千葉市及び全国学力・学習状況調査の結果などから、本市における児童生徒の学力の定着状況は良好であることを読み取ることができる。また、学力向上のための具体的な手立てに関する保護者向けパンフレットや教員向けプログラムの作成及び配布は学力向上を目指して学校教育を強力に推進していることの現れであると判断できる。今後は未整備の小学校における校内LANの整備を含め、教育環境整備のより一層の充実を期待したい。

「教育・悩み相談の充実」については、教育相談指導教室や教育相談等の学校不適応対策の強化により、不登校児童生徒の割合が減少し、本事業の成果が窺える。また、特別支援教育指導員や学校訪問相談員等の派遣事業については、各学校から高い評価が得られている。これらの事業に関しては、今後のニーズの高まりも想起され、より一層の整備拡充が期待される。

「『豊かな心』の育成」については、中学校の職場体験や小学校の農山村留学等の体験活動の推進、ふれあいパスポートの配布等、「人間尊重の教育」への取り組みは充実していると判断できる。また、学校図書館指導員の配置等による読書教育の推進により、読書量の増加という効果を読み取ることができる。その一方で、学校図書蔵書達成率が十分でない学校が40%ほどあること等から、学校図書館の一層の整備充実が必要である。

「丈夫な体と健康づくり」については、新体力テストの結果によれば、本市の児童生徒の体力・運動能力は良好な状況であることが窺える。また、指導者派遣事業により、運動部活動の充実を図ることで、学校現場から高い評価を得ている。その一方で、給食費未納入問題等も残されており、給食の在り方についての検討を含め、「食育」の観点にも鑑み、課題解決のための、さらに効果的な具体策を講じる必要があるであろう。

「安全で快適な学校づくり」については、教育環境整備は概ね計画通りに実施され、また、学校の安全・防犯対策としての学校セーフティウォッチャーによる活動や防犯カメラの設置等が実施されている。その一方で、学校施設についての耐震化率は、都市の財政事情もあろうものの、年に0.8~0.9%程度しか進んでおらず、平成19年度末の時点で、結果的に54.6%までしか達成されていない。学校は児童生徒の生活の場であり、地域住民の避難場所になることを考慮すると、緊急に対応することが必要である。加えて、施設の老朽化対策にも関連し、定期的な安全点検に関する事業の拡充が求められる。

「特色ある学校づくり」については、「特色ある学校づくり経費」の活用により、各学校では教育課程を工夫し、特色ある教育活動が展開されている。また、高等学校では独自の研究開発に取り組み、成果を上げていることが窺える。今後は各学校の特色を広くアピールする工夫に努めるとともに、学校評価等の中で、特色ある学校づくり事業についての効果測定に関するシステムづくりが必要であろう。

「教職員資質の向上」については、教職員の資質・力量向上のため、各種研修や各学校での研究が実施されており、今後は、研修についての効果測定システムを構築・実施し、その結果を基に、研修の内容についての改善を図っていく必要がある。さらに、団塊世代教職員の大量退職等への対応として予想される教員の新規採用数の増加に伴い、初任者や若手教員の能力・資質向上のための研修を強化させることが重要課題である。

「家庭・地域との積極的な連携」については、学校教育の推進は学校のみならず、家庭や地域社会が連携し行っていかなければならないことから、そのための基盤づくりにあたる「学校・家庭・地域連携まちづくり推進事業」は重要であると考えられる。本事業への参加者は年々増加していることが窺えるが、本事業が青少年の育成に益々の効果をもたらすよう、その内容のより一層の充実を期待したい。

以上、平成19年度に千葉市教育委員会が執行した「施策1 千葉市の学校で学んでよかったと思える学校づくり」に関わる事業については概ね良好な成果を得ているものと考えているが、市民の大きな期待に応えるためには、事業実施に関連した点検・評価を明確に位置づけ、説明責任を果たすとともに、教育施策の充実につなげていく仕組みをつくることが重要である。「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」を目指しつつ、「心の教育」の充実、学校・家庭・地域社会の連携のより一層の強化、青少年の健全育成を市民と共に実現する体制の整備を進めながら、今後とも、10年あるいは20年先を見据えた教育改革を企画、推進していくことを切に望むものである。

○ 頼本 維樹 氏

千葉市では、現在第3次生涯学習推進計画に基づき、計画的体系的に生涯学習関連施策の推進が図られている。早くから生涯学習の推進は千葉市の重要施策として位置づけられ、平成5年には千葉市生涯学習推進基本構想が、平成7年には千葉市生涯学習推進計画が策定された。その後平成13年には第2次、平成18年には第3次の推進計画が策定されてきているが、第2次以降の推進計画においては、前次の計画における施策の成果と課題を総括した上で今後の課題を提示し、その課題へ対応する方向性に基づいて関連諸施策を体系的に位置づけ、実施してきている。

このように従来から推進計画に基づき総合的体系的に生涯学習関連施策を積み重ね推進してきていることは、千葉市の生涯学習振興施策の特長であり、千葉市教育委員会が生涯学習関連施策の立案・実施において中心的な役割を担ってきたことをまず高く評価したい。

今回、事業点検・評価を行った千葉市教育委員会による生涯学習分野の施策とそれを構成する基本事業については、概ね実施状況は良好であると認められる。

具体的な事業については、図書館のネットワーク化などによる利用者サービスの充実、少年自然の家の管理運営における全国に先駆けてのPFI事業の導入、最新鋭の参加体験型施設である科学館など、先進的で特色のある事業がいくつも見られる。

その一方で、千葉市内には多くの公民館があり市民の身近な学習の場として親しまれている。また、青少年育成行動計画に基づく青少年健全育成活動、千葉市内の全小学校で実施されている放課後子ども教室推進事業などにより、地域の教育力の強化に努めるなど、地道で着実な施策も展開されている。

今後の生涯学習施策の点検・評価について、生涯学習施策による支援によって学習者がどのように変わっていったかを評価することが考えられる。この指標の数値化は難しいと思われるが、例えば生涯学習ボランティア活動や社会教育活動、青少年健全育成の取組によって市民や青少年がどう変わったかが把握できればと考える。また第3次推進計画で生涯学習推進にあたっての今後の課題とされているライフスタイル・ライフステージに応じた学習機会の充実や、社会的課題に取り組む生涯学習の支援などについて、その実現度合いを測ることも今後の評価指標として考えられる。

これからも、千葉市教育委員会が生涯学習の振興について総合的・体系的な視野を持ち、市民の施策ニーズと施策課題をしっかりと把握しながら、地道な取組と先進的な取組を適切に組み合わせ、千葉市らしい生涯学習社会の実現に向けて施策がさらに充実していくことを希望するものである。